

みんなのた場

サ一フル
仲問
118

十八成サロン

地域の交流広げたい

十八成地区の住民に参加を呼び掛け毎月1回、「おちやつこ会」という昼食を兼ねた交流会を開催しています。

本年度3回目の6月18日は70〜80歳の女性12人が参加。活動拠点にしている「くぐり会館」周辺の除草作業をした後、ミニバラ、ラベンダー、ツタ類を直径20センチ、高さ10センチほどの丸いプランターに寄せ植えする活動に取り組みました。完成した寄せ植えは各自で持ち帰り、牡鹿地区内の公共施設、病院などにも届けまし



心を込めて仕上げた花の寄せ植え



手作りの昼食を味わいながら談笑

た。

昼食では皆で手作りした冷やし中華、わらび餅などを味わいながら談笑し、次の活動内容や開催日程なども話し合いました。

結成は平成20年4月。以前の活動拠点がだった十八成老人憩の家が東日本大震災で被災して解体されたことから、高台の十八成復興公営住宅そばに新たに地区で建築したくぐり会館へ活動拠点を移し、29年4月から再開しました。毎回、16〜18人が参加し菓子作り、お花見、クリスマス

スパティーなどさまざまな活動をしています。2月の節分時期に手作りする「恵方巻き」は、地区内から注文が殺到する人気ぶりです。

活動内容や開催日は、あらかじめ決めてはならず、次回やりたいことや集まれる日に参加者で話し合っで、決めるのが大きな特徴です。

代表の阿部征子さんは「対象は地区民全般ですが、参加者のほとんどは女性。男性にも積極的に参加を呼び掛けていきたいです」と話します。

設立発起人で事務担当の遠藤信子さんは「おちやつこ会以外にも、地区内に多くいらつしやる一人暮らしの高齢男性らを招いた『地域食堂』を開催するなど交流活動をさらに広げたい」と願っています。

文化財
たんぽう
108

港町・石巻の活気記す

生涯学習課

おくのほろ道300年

「月日は百代の過客にして行かふ年も又旅人也」の序文から始まる「おくのほろ道」は、元禄2年(1689)年、松尾芭蕉が



日和山に立つ芭蕉と曾良の銅像。近くには貞享2年(1685)年に詠んだ「雲折々人をやすむる月見かな」の句碑もあります

門人の河合曾良を伴って、江戸の深川から東北・北陸を巡り、大垣(現在の岐阜県)までを旅した記録を、俳句を織り交ぜて編んだ紀行文ですが、今年には出立から330年の記念の年にあたります。そこで本稿では、芭蕉の石巻での足跡を紹介いたします。

芭蕉が関東から白河の関を越えて東北に入り、奥州街道を北上して、白石、岩沼、仙台、多賀城、塩竈、松島を経て石巻に至ったのは旧暦5月10日(新暦6月26日)でした。石巻に到着した芭蕉は日和山に登り、「数百の廻船入江につどひ、人家

地をあらそひて、竈の煙立つたけたり」と、米蔵などが立ち並びにぎわう仙台藩最大の港町の様子を記述しています。日和山からは、歌枕「袖の渡り」(住吉)、「尾ぶちの牧」(牧山)、「まの、萱原」(真野の萱原)の他、金華山(真野の萱原)の他、金華山も眺望できたといっています。芭蕉が関東から白河の関を越えて東北に入り、奥州街道を北上して、白石、岩沼、仙台、多賀城、塩竈、松島を経て石巻に至ったのは旧暦5月10日(新暦6月26日)でした。石巻に到着した芭蕉は日和山に登り、「数百の廻船入江につどひ、人家

門人の河合曾良を伴って、江戸の深川から東北・北陸を巡り、大垣(現在の岐阜県)までを旅した記録を、俳句を織り交ぜて編んだ紀行文ですが、今年には出立から330年の記念の年にあたります。そこで本稿では、芭蕉の石巻での足跡を紹介いたします。

芭蕉が関東から白河の関を越えて東北に入り、奥州街道を北上して、白石、岩沼、仙台、多賀城、塩竈、松島を経て石巻に至ったのは旧暦5月10日(新暦6月26日)でした。石巻に到着した芭蕉は日和山に登り、「数百の廻船入江につどひ、人家

を極めた平泉へ向かいま



芭蕉の宿所「四兵へ」宅があったとされる新田町(現千石町)の標柱

なお、曾良の旅日記によれば、松島を出立した芭蕉は、矢本付近で「コンノ源太左衛門」から、石巻での宿所「四兵へ」宅を紹介してもらっています。現在、その場所「新田町」の標柱が立っています。

日和山に立つ銅像の眼下では復興工事が進められており、芭蕉が見た風景とはかけ離れてしまっています。この記念の年に、あらためて芭蕉の足跡をたどってみてはいかがでしょうか。



総合運動公園の愛称「セイホクパーク石巻」初のネーミングライツ

市総合運動公園の愛称が6月30日から「セイホクパーク石巻」になりました。大手合板メーカーで石巻に工場があるセイホク株式会社(東京)が市からネーミングライツ(命名権)を取得しました。市としては初めての命名権売却です。30日に現地であった除幕式では亀山市長ら関係者が石碑の除幕を行い、新看板を披露しました。契約期間は令和4年6月30日まで3年間。セイホクパーク石巻には野球場、フットボール場、テニスコートなど各種スポーツ施設がありますが、個別施設の名称変更はありません。

図 体育振興課 ☎25-6471

河北 ご神体、12年ぶりに御開帳



久須師神社で記念祭



尾崎地区にある久須師神社で6月9日、ご神体を12年に一度公開する「御開帳記念祭」が行われました。本殿で神事があり、薬師如来など四つのご神体がお披露目されました。境内の舞台で法印神楽が奉納され、長面浦産の焼きガキやカニ汁が無料で提供されました。東日本大震災後、市内外へ移転した人たちも集まり、近況を報告し合いながら、祭りを楽しみました。

雄勝 「ペタンク」で楽しく運動

石巻 女性のチャレンジ熱く後押し

女性がニユースポーツ体験

女性教室「こぶし塾」が6月20日、雄勝小・中学校体育館で開かれました。今回は14人が参加し、ニユースポーツである「ペタンク」を行いました。ほとんどの方が未経験でしたが、参加者は楽しみながらも、時には真剣に練習や試合に取り組みました。お互いに声を掛け合いながら和気あいあいとプレーする姿も見られました。参加者からは「けっこう良い運動になった」、「機会があればまたやりたい」などの声が聞かれました。



石巻復興支援ネットワークが受賞

内閣府の「女性のチャレンジ支援賞」に、NPO法人石巻復興支援ネットワーク（愛称やっぺす）が選ばれました。兼子佳恵代表理事らが7月10日、市役所を訪れ、菅原副市長に報告しました。やっぺすは、子育て世代の母親などを中心に行政や地域、企業と連携。仮設住宅への支援や100人を超える女性リーダーの育成など男女共同参画社会実現への取り組みが高く評価されました。



桃生 松林再生へ苗木750本

河南 2種目で熱い戦い相次ぐ

90人で植立山公園に植樹

松くい虫被害で減少が進む松林を再生しようと、住民団体「ものう夢ネットワーク」と桃生公民館は7月7日、桃生植立山公園にアカマツの苗木750本を植樹しました。地域住民や桃生中生徒ら約90人が参加。石巻地区森林組合から指導を受けながら高さ30センチほどのアカマツの苗木を丁寧に植えました。植立山公園での植樹活動は4回目で、毎年800本近くを植えています。



公民館分館対抗球技大会

河南公民館主催の分館対抗球技大会は6月16日にビニールバレーボールが遊楽館で、同23日にソフトボールが河南東中校庭で開催されました。ビニールバレーは小崎分館、ソフトボールは黒沢分館が優勝しました。9月8日に東松島市である「宮城ヘルシーふるさとスポーツ祭石巻地区大会」の予選会を兼ねて行われました。



牡鹿 ホヤ詰め放題に笑顔満開

北上 「おいしいね」羽釜のご飯

「はまっこ市」が盛況

「第7回牡鹿半島はまっこ市」が7月6日、鮎川浜の牡鹿公民館跡地で開かれました。地元で水揚げされた殻付きホヤを約1トンの用意。詰め放題では1袋500円で提供し、参加者は大きなホヤを袋に入れ、笑顔を見せていました。定置網で取れたサバとアジの詰め合わせは整理券を配布して約150ケースを販売し、海産物や鯨肉、野菜、加工品などの出店も並び、にぎわいました。



白浜ビーチパークデイ

公園の多様な楽しみ方を提案する「白浜ビーチパークデイ」が6月23日、白浜ビーチパークで開かれました。親子連れなど約30人がエコストーブと羽釜で炊いたご飯をいただきました。美しい景色を眺め、地元で採れたワカメやヒジキをおかずと一緒に野外での朝食を楽しみました。このイベントは、北上地域復興応援隊が毎月第4日曜日に趣向を変えて企画しています。

